

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第40号 発行日2006年05月25日

Contents

定時総会で松尾理事長ら再選	1
総会記念講演(岩村・国交省顧問ら)	2
霞が関情報(江頭・経団連観光委員長)	3
観光人国記(山形県副知事、千歳館女将)	4
立教支部(外国人留学生と築地へ)	5
協会5年の歩み	6
協会5年の歩み	7
フィンランドへ行く、協会の決算	8
江戸城再建目指す、COLUMUN	9
お得な情報(エソギ工、道の駅)	10
NPOから提言(寺前理事)	11
お天気の話(気象協会)	12



山形県観光の代表の一つ「蔵王」。この『お釜』は、樹氷と並び蔵王の象徴。蔵王火山の火口湖であり、太陽光線によりエメラルドグリーンなど色が変わるので、別名五色沼とも呼ばれる。強酸性なので、生物は育たない。(写真は山形県提供)

JN協会 総会開き、松尾理事長らを再任 岩村・前国交次官が観光立国で提言

JAPAN NOW観光情報協会は、5月19日午後、東京・大手町の「KKRホテル東京」で通常会員総会および記念フォーラム「地球規模の観光大交流時代ですよ」(観光立国フォーラムin東京)を開いた。松尾道彦・理事長は、冒頭の挨拶でJN協会の活動強化について決意を表明した。

このあと議事に入り、平成18年度事業計画や予算案を審議。松尾理事長らを再任し、新たに横山善太副理事長(JALU特別顧問)、坂本・北海道支部長(JR北海道会長)、梅原・四国支部長(JR四国会長)らが理事に就任する人事案件を満場一致で承認した。JN協会は松尾体制のもとで発足6年目のNPO活動に取り組む。



2006年度総会風景

藤野公孝参議院議員は祝電を寄せ、JN協会の観光振興への活動に期待を示した。

午後2時から記念フォーラムに移り、国土交通前事務次官の岩村敬氏が「日本の観光戦略」について続いて異文化コミュニケーターのマリ・クリスティーヌ氏が「私が見た日本の観光立国」について講演

し観光振興策を提言した。

約100人が参加し盛況だった。(2面に要旨)

北陸新幹線と中部9県の広域観光を 7月に観光フォーラムin 金沢を開催

JAPAN NOW観光情報協会は、北陸支部と協力して7月14日午後3時から金沢市の金沢スカイホテルで、JN協会5周年記念のフォーラム「中部9県の広域観光と北陸新幹線の全体計画」(観光立国フォーラムin金沢)を開く。JN協会の松尾理事長や水野・北陸支部長(前北陸鉄道会長)の主催者挨拶のあと山出・金沢市長、新木・北陸経済連合会会長の来賓挨拶があり、このあと「中部9県の広域観光」について須田・JN協会副理事長(JR東海相談役)が講演し、金沢・鉄道運輸機構理事は「北陸新幹線の全体計画」について講演する。会員や一般の方の参加を歓迎。

北陸支部も翌日、講演会

北陸支部は翌日の15日午後1時から石川県河北市の「西田幾多郎特別記念館」で「体はずませ、心おどる街おこし」をテーマに講演会を開き、JN協会の松尾理事長らが講演する。

外国人が一人で歩ける日本に 岩村・国土交通省顧問が観光立国で提言



岩村敬・国土交通省顧問は「皆さん観光のプロ。お釈迦様の前で説教するような心境」と前置きで笑いを誘い、豊富な資料を示しながら、日本の観光戦略について語った。（配布された資料はデータが豊富で役に立つ）

観光の意義について

世界観光機関（WTO）によると、相互理解の促進、観光客を受け入れる国と地域社会に利益をもたらす など5つのポイントが挙げられている。

観光は平和へのパスポートと言われ、かつ経済発展、雇用効果も大きい。2004年度の試算では、生産波及効果55.4兆円（GDPの5.8%）、雇用創出効果475万人（総雇用の7.3%）に上る。観光は21世紀のリーディング産業といわれるゆえんだ。

国際観光の歴史 外貨獲得から外貨減らしへ

終戦後は、外貨獲得のために海外からの観光客誘致を進めた。その後、1963年に観光基本法制定、1964年海外渡航が自由化され、1967年には海外から48万人が、海外渡航は27万人となった。

その後、貿易黒字が急拡大し、政府のスタンスも「テンミリオン計画策定＝海外渡航の勧め、5年間で倍増」となる。2003年、小泉首相が観光立国を宣言しビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）をスタート。施政方針演説で繰り返し強調した。

わが国観光の現状

日本への海外客は世界32位、アジアでも7番目。韓国、台湾からは、世界に出かける人のうち、20%以上が日本に来ているが、中国からは65万人、3%に過ぎない。中国からフランスへは80万人が行っているのに、である。今後、中国がカギとなろう。

国際観光振興の目標と取り組み

自民党は40数年ぶりに観光基本法を改正しようとしている。小泉首相が打ち出した「海外からの観光客を2010年に1000万人へと倍増」は、中国からの観光客のビザなし来日の実現とか、物価は高くないなど海外でのPR、安いパック旅行の設定、修学旅行の呼び寄せなど、あの手この手が必要。また、国内観光地の整備に「観光ルネッサンス事業」を進めている。

まとめ 観光立国の実現に向けて

わが国の観光収支は、3兆円の赤字。このアンバランスは是正しなければならない。

VJCで進めている日本ブランドの発信、国際競争力のある観光地作り、ガイド制度の改善、そして住民と一体となった「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を目指すことが肝要。案内標識一つとっても、点としては出来ている地域もあるが、線から面へと広げ、外国人が一人でも歩ける日本にしなくてはなるまい。

「JAPANのイメージ」発信を！ マリ・クリスティーンさんが厳しい指摘

愛知万博のコーディネーターも務めたマリ・クリスティーンさんは「外から見ていて、外国人がもっと日本を訪れて国内を見てもらう仕組みを作らなくてはいけない、と思う」述べ、次のように語った。



PR下手な日本

日本はPRが下手だ。衛星放送やインターネットを見ても、マレーシア、韓国、中国のPRはレベルが高くビジュアルに出来ている。国がやることは、「JAPAN」のイメージ作りであって、観光地の個別紹介のような細かいことではない。

二つの目を見た日本

私は（外国人と日本在住者の）二つの目で見ているが、海外の目でみると、弱い。少なくとも絶好のチャンスを3度逃している。たとえば、映画「ラストサムライ」は全世界で好評を博したが、海外で映画上映の前に日本のイメージを伝えるようなPR映像を流していない。「ショウゲン」のときも、今度の「サユリ（芸者の思い出）」の上映時にも、そうしたことが出来ていない。

愛知万博もそうだったが、海外用発信の内容ができたのは半年前。ふつう、外国人は2～3年先の予定を立てる。インターネットで「ETN」を見ると世界各国、自治体、各企業が、数年先の予定を含め観光やイベント等のメッセージを送り続けている。日本からの発信は、見たことが無い。

「観光立国」については、総論賛成のはずなのに各個バラバラ。国内にいると「日本人は、外国の人に来て欲しくないのではないか」と感じる。

もっと自分の国を知りなさい！

日本人は、もっと自分の国を良く知らなければ。たとえば、観光地を案内する人は、通りいっぺんのは知っていても、「この柱はなんの木」と聞かれて、答えられない。地元の人でも「住んでよしのまちづくりを進めるには、そうした基本的なことについての勉強が必要だ。

言葉のカベというが、極端に言えば観光とはアドベンチャーでもあるので、言葉が出来なくてもウエルカムの心で窓を開き、メッセージを送ればいい。

政府に言いたいのは、（予算面を含め）平等にしすぎであり、的が絞られていない。たとえば、国立博物館は独立採算の法人ではダメで、国を挙げて支援するシステムにしないと。

例示的にいえば、京都の昔の商人宿に、外国人が多く泊まっている。インターネットによる発信である。熊野古道、四国88ヶ所など、世界に知らせたいところが沢山ある。小泉首相の観光立国宣言で、やっと土台ができた感がある。もっと、日本のすばらしさを全世界に知らせて欲しい、と思う。

（文責・岩村顧問とも、加納）

東京 電が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

地方は燃えている

日本経団連も、観光立国進める

江頭・観光委員長に聞く

日本経団連は「21世紀は観光の時代」ということで観光に力を入れている。観光委員長に観光振興について話を聞いた。（聞き手阿部和義）



日本経団連観光委員長 江頭 邦雄（えがしら・くにお）

長崎県出身。1962年一橋大学卒業。味の素に入社。冷凍食品部長、東京支店長などを経て97年6月に社長。2005年6月に会長。04年5月に日本経団連評議会副議長。05年10

月に観光委員長。68歳。

製造業が主体で活動している日本経団連に観光委員会が出来て1年半になります。味の素の会長が委員長になったのはどういういきさつなのですか？

味の素の社長を8年やり年間海外に60日間出ていました。味の素は今や従業員も6割は海外で働いている会社です。ウィークデーは仕事ですが、土曜、日曜は観光地めぐりです。ペルーの空中都市マチュピチュやブラジルのイグアスの滝、イタリアのベニスなど見て回りました。そこでいろいろなことを感じました。ある時、奥田会長が政府が推進しているビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）に協力して観光に力を入れるといった時に私が生意気にも意見を言いました。そしたらお前が観光委員長をやれということになったのです。

06年3月に観光立国基本法に向けてという提言を出しました。その中で4つの問題点を出していますが一番いいかったことは何ですか？

1963年に作った観光基本法には計画を作るといった概念が無い事が問題です。具体的に観光客を増やすというものが無い。さらにこうした計画を推進する母体が無いことです。企業でもこうした計画と実践する舞台が無ければ事業はうまくいきません。観光計画とそれを実施していく部隊を作るように要望しました。自民党の愛知・観光特別委員長も北側国土交通大臣にも伝えました。日本経団連の意見を入れて観光立国基本法をこの国会で作るそうです。反対する政党は無いでしょう。

国内の観光地で観光振興を進めていますが一番必要なことは何でしょうか？

今、地方の観光地は燃えていますよ。この前、九州に行ったのですが、7県の代表が出てきて大変

な盛り上がりでした。JR九州と各県が九州観光推進機構を作りうまくいっています。いまや49の観光シナリオが出来ているということです。こうした盛り上がりを見ていますと人ですね。大分県・湯布院なども観光振興に命をかけた人がいたんですね。

VJCで今年は外国人観光客を750万人に増やす予定で順調ですが、人が増えればよいのでしょうか？

確かに人も来る必要がありますが、質も大事です。750万人の観光客が来るフランスも熟年、ビジネス客をターゲットにしています。お金を使う人に来て貰いたいということでしょう。

自民党はカジノについて検討会を作っていますが日本経団連はどう考えますか？

日本経団連もライブエンターテイメント分科会を作り、カジノについて勉強しています。いまやカジノの本場のラスベガスも健全な観光地に変わっています。子供も遊べる所になっています。カジノも日本でやったらよいと思いますよ。

7月、北海道で初の日中韓観光大臣会議開く 東アジアの観光振興、交流目指して

観光立国推進を目指している日本政府は、韓国、中国、日本の観光担当大臣会議を7月1日～3日に、北海道で開く。初日の会場は釧路市阿寒町、2日は旭川市、最終日は札幌市の予定。

東アジア地域への、欧米諸国はじめ他地域からの観光客の誘致を、日中韓を結ぶルートを整備するなどの“共同作戦”で推進することの検討、3カ国相互間の観光客増加を図る方策を話し合う、などが議題となる。

日中韓は、政治面ではギクシャクした関係となっているが、観光振興は共通の課題であり、政治問題と切り離れた形で、会合を開くことで合意しているという。

日本の出入国者数

- 昭和初期に比べ入国外国人は150倍以上、出国は40倍-

	出国数 (万人)	訪日外国人 (万人)	備考
1927	2.6	2.5	1930年外国客誘致、国策に
1937	4.0	4.3	
1957	—	1.3	1950、外国人訪日、戦前超
1967	2.7	4.8	1964、邦人海外渡航自由化
1977	3.15	10.3	1971、ニクソンショック
1987	6.83	21.5	1987、テンミリオン計画
1997	16.80	42.2	
2005	17.40	67.3	2003、VJCスタート

国土交通省による、岩村前次官講演（2P）の参考資料

観・光・人・国・記

山形観光一段の振興を目指す

後藤靖子・山形県副知事に聞く



1980年に東大法卒、運輸省（現在の国土交通省）に入り、九州運輸局企画部長、同省観光部企画調査課長、国際観光振興機構（JNTO）ニューヨーク観光宣伝事務所長等を経て、2005年10月から現職。

山形新幹線への分岐点・福島駅のプラットホームにずらりと並ぶ『温泉 やまがた 王国』と書かれたのれん（旗？）。山形県に入ると、つばさの車内には県内各地の観光地案内のテロップが流れる。「この県、観光振興に力が入っているな」と感じた。そして副知事室の入り口にも、のれん。くぐって入り、後藤靖子副知事に会う。



昨年10月、観光を県政の柱の一つに据えている斎藤知事に招かれ就任した後藤さんは、その経歴が示すとおり“観光のプロ”。県内はむろん、県外からも観光振興について講演を依頼されるという。

山形県は、米沢、酒田、天童など観光都市が点在しているし、主要な温泉地が16箇所もある。蔵王、最上川、「閑かさや 岩にしみいる 蝉の声」で知られる立石寺（山寺）、出羽三山。そしてサクランボや、ぶどうなどの果物、山形牛に代表される食。観光資源は、実に豊富だ。県都・山形は、新幹線も東京から直行で3時間足らずと、交通の便もよい。

なのに、山形県に入ってくる観光客は、年間4000万人前後で、横ばいの状況が続いている。日本の人口が減少に向かう中で、この県の定住人口も増える可能性は少ない。

となると、交流人口を増やすことが県経済にとって大きな意味を持つてくる。「交流人口10万人は、定住人口2000人に匹敵する経済効果をもたらす」と後藤副知事。県では『「ホスピタリティー」を活かした山形プランづくり』を基本目標とする「やまがた観光振興プラン」を今年3月に策定し、現在は、その実現に力を注いでいる。後藤副知事は、その旗振り役である。

九州運輸局在任中には、湯布院や別府などを訪れ躍進する観光地の実情をつぶさに見、その後も国の観光振興に関しての部署を経験した。山形県入りする前には、外国人観光客倍増を目指すビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）の重要目標地である米国で陣頭指揮に当たっていた。

その後藤さん「山形に欠けているのは、なんだろう」と考えた。「観光資源は、自然、名所・旧跡、食、どれを見ても一級品ぞろい。だけど、それだけなら日本の他の土地にも、ある。山形人は、もっと

発信力を高める必要があるのではないか」と見る。

そして、今後の課題として、従来型の観光にとらわれず県内各所ばかりでなく、東北各県との連携による広域観光、さらには農業や木工などの地場産業と観光を結びつけること、つまり“繋げる機能”が必要になる。そのためには、その推進力となる人材の育成がカギとなる、と強調する。「こうした人材育成の後押しをしていきたいと思います」。

本業以外にも多彩な観光振興活動

文化財料亭『千歳館』守る好子女将

「えっ、マリさんとお知り合いですか」白澤が驚いたような声を挙げた。相手は、山形市の老舗料亭『千歳館』の女将・澤渡好子さん。5月19日のJN協会通常総会記念講演に講師をお願いした異文化コミュニケーターのマリ・クリスティーンさんのこと。「ええ、家族同然のお付き合いなのですよ」と好子女将。世の中は狭いものである。

『千歳館』は、創業130年の伝統を誇る。明治末期の薬師大火で焼失後、大正4年に建て直した鹿鳴館調の本館は、いまは旧県庁舎同様、国の有形文化財。2階の大広間は結婚式や大宴会に使われるが、そこには大黒さまが鎮座します（写真）。この家の商売繁盛、災難防止の守り神なのだ。



県的生活衛生同業組合の山形支部長でもある好子女将は、本業以外にも忙しい。市内に7人いる芸者衆、これも7人の舞子さん（舞妓とはいわない）との付き合い、身の上相談の相手など、インタビューをお願いした日にも、なかなか時間が取れず、夕方になってしまった。で、「お詫びに」と夕食をご馳走になった。最初に出てきたのが緑色の豆腐。一口含んでみても、素材が分からない。やっと現れた好子女将に聞くと「アスパラガスですよ」。これにはビックリ、つぎつぎに出る料理も「板長はじめ皆で食べ歩いて研究していますので」とおっしゃるとおり、すばらしかった。

「官々接待の自粛、企業の交際費節減の影響は？」と聞くと、「ウチは別の事情で、その前から伸び悩んでいたんで、早めに手を打ちました。ですから、その影響はよそ様より少ないと思います」と。樹齢100年にもなるサクラをはじめ、古木に囲まれた中庭でのピアガーデン、気軽に入れる和風レストランなど、その成果である。

「今後は、格式ばらずに若い人たちにも使ってもらえる料亭、地元の優れた素材を生かした特色ある料理の開発を心がけています」。そして、本業以外では「点（優れた文化財、名所など）と点を線に結べるような、ゆったりした人力車観光を」と、会う人ごとに呼びかけているような。

（インタビューは後藤副知事とも、白澤、加納）



築地を回って浜離宮へ 外国人ツアーレポート

立教大学3年 西山 英恵

まさに春らしい陽気になった4月22日の土曜日に私たちNuggets Of Hospitalityは新入生39名と外国人の方4名を迎えて「日本の昔の商業の体験」をテーマにしたツアーを行いました。

現代は大型スーパーで何でも揃い、私たちは一つの場所で何でも一度に買えてしまいます。私たちが普段買うものはどこで卸されているんだろう...見てみたい!体験してみたい!という事で、今回は東京の野菜や鮮魚が一挙に集まる築地、そして月島をメインに今回のツアーを行いました。

朝10時、地下鉄の築地駅に集合し、簡単な自己紹介を済ませてからグループで築地市場を散策開始です!築地の土曜日は特別イベントなども各店舗で行われており、多くの観光客が訪れてとても活気があります。築地といえば鮮魚!というイメージが新入生には強かった様ですが乾物や練り物、業務用の食品など魚以外の商品が多く並んでいました。試食を誘う威勢の良い声が飛び交い、雰囲気の流れにのって大いに楽しみました。

築地で外国人の方に人気だったのは卵焼きの老舗「松露」での卵焼き体験!おじさんの熱心且つ笑いも交えた丁寧な指導を受けました。黄色いエプロンに卵焼き用フライパンを持ちながら記念撮影、そして自分で作った卵焼きはプレゼントという二大サービス!!という卵焼きの味だけではない美味しい体験をして大満足でした。

築地散策後は月島へ向かいました。昔、船が通過するたびに開いていたという勝鬨橋を渡り、春の気持ちいい風を感じながら皆でウォーキングです。歩いている間、新入生と外国人の方々の会話も弾んでいて、参加者同士の交流が多く見られました。

月島ではもんじゃランチです。日本人が実はあまり知らないもんじゃ焼きの作り方を店のおじさんが「こおやるんだ!」と勢いよく鉄板を叩きながら指導してくれました。外国人の方も見様見真似で力強く頑張っていました!もんじゃランチで仲も大分深まり、次は最終目的地の浜離宮へ向かいました。



浜離宮は東京都が管理する日本庭園で季節ごとに花々が咲き、多くの観光客が愛でに訪れます。この時期、丁度八重桜と菜の花が満開で綺麗に咲いていました。都会の中にこのような自然の豊かな地があることに心むむ新入生や庭園の和風水路に興味を示す人など、それぞれが思い思いに庭園内を散策して楽しみました。

最後に広い菜の花畑で全員の記念撮影をしてツアーが終了しました。

今回も新たな東京の発見、そしてそれぞれが交流を深めたツアーになりました。

探偵ごっこのススメ

田久保流、旅の楽しみ方

立教支部長 田久保 万里夫

もしも訪れた土地で予定が狂いやることがなくなってしまったら・・・そんな時には『探偵ごっこ』をしてみてください。遊び方は簡単です。

まずは街を歩いている人の中からちょっと気になる人を探してみます。例えば、楽しそうに会話をしながら歩いているご婦人たちや、無精ひげにサングラス姿の今流行のチョイ悪おやじなどなど。この人一体どこに行くのだろうか?と思うような人を見つけてください。これだという人が見つかったら、探偵の気分になってこっそり跡をつけてみるのです。スリルを楽しみながら地元の人々の生活が垣間見れますよ。

もしかしたら、地元の人しか知らないような美味しいお菓子のお店なんかが見つかるかもしれませんよ。ただし熱中するあまりに迷子になることがないように気をつけてくださいね。また人によっては、ストーカーに間違えられる恐れも無きにしもせず、気をつけてください。

IT技術を観光振興に活かそう

観光立国セミナーへ、ご参加を!

JN協会が開いている「観光立国セミナー」の12回目として『テレビ電話を利用した遠隔通訳サービス及び電子ペーパーについて』、団体会員である日立製作所のソリューション統括本部の古谷雅年氏が、現状と見通しを語る。

6月13日正午から約2時間、東京・麹町の「海事センタービル」8階会議室で。参加無料、昼食を用意します。参加希望の方は、事務局03 - 5304 - 9500まで。

夜の放談会へも、どうぞ!

酒を飲みながら、観光立国を大いに語る。原則として毎月第3金曜日午後5時30分から、代々木の事務局で。会費は1500円。参加希望者は事務局へ。

JN協会5年の歩み

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、6年目に入り順調に活動を展開しています。四国支部設立にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言も行い、成果をあげています。

JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長 = 当時 = が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長)
- ・四国支部(2006年4月14日、JR四国会長の梅原利之氏が支部長定)



写真(発足メンバー)

JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」 平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」 平成14年1月31日(木)
講演者:須田寛氏(東海旅客鉄道会長)、カトリーヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」 平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議員)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」 平成14年10月4日(金) 於:金沢市 講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」 平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」 平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」 平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト:
片山文彦氏(JN協会新宿支部長)ら4名。
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」 平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤悟(国土交通省観光部長)、福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」
平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏(鉄道運輸機構九州新幹線建設局長)
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、
中村利雄氏(万博協会事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は大名古屋圏の時代」 平成17年1月25日(火) 於名古屋市・銀行協会ホール
基調講演:福川伸次氏
パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「サッカーと観光立国」 平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・リーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於ホテルKKR
- 第15回:「大九州圏観光フォーラム2005」 平成17年9月21日(水)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェット理事長ら5人講師
- 第16回:「21世紀は大北海道圏の時代」 平成17年11月08日(火)。講師:電通顧問の福川伸次氏(元通産事務次官)、
照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議員の柴田耕介氏ら4人。
- 第17回:「大四国圏の活性化と将来展望」 平成18年4月14日(金)。講師:機械産業記念事業財団会長の福川伸次氏ら3人。
- 第18回:「地球規模の観光大交流時代ですよ」 平成18年5月19日(金)。第5回会員総会記念講演会。講師:岩村敬・前国土交通省事務次官、マリ・クリスティーン・異文化コミュニケーター
- 第19回:「大中部圏の広域観光と北陸新幹線の建設」(観光立国フォーラムin金沢) 平成18年7月14日(金) = 予定。講師:須田寛(元JR東海会長)、金沢鉄道運輸機構理事(新幹線担当)

JN協会5年の歩み

JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回： 山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日(木)。
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、
時速450キロを体験。
- 第2回： 東京電力柏崎刈羽原発など。 平成14年8月24日(土)、25日(日)
参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日(火)
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら
10名が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日(水)
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。
時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日(水)
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線(鹿児島中央駅～新八代駅) 平成16年3月1日(月)
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試
乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日(木)。
松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
- 第9回：開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。



リニア実験線



開港前の中部空港管制塔で

JN協会の活動実績（イベント）

【大道芸シンポ】 2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京 まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さんが司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。
なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

【国際交流】 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えらる。真ん中は新湊市長。



2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツィ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。

このあと、イタリア・トリノの市長との交流を予定し、準備を進めている。

JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。
(1)「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。(2)「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。
(3)「観光立国セミナー」 2004年～2006年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由どうぞ。

JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長(当時)は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

置き忘れたビデオカメラが戻った 高く評価できるフィンランド

JN協会事務局次長 杉 行夫

突然、5月6日から14日までフィンランドに行ってきました。フィンランドの携帯電話会社・ノキアは、毎週「マンデー・モーニング」という会合を行っており、そのサミットに息子がやっている携帯電話へのコンテンツ配信事業の企画を説明しに行くというので付いて行ったのです。

私自身は1965年7、8月の欧州1ヶ月の旅でヘルシンキに1泊したことがありましたが、それ以来のことです。その時撮った写真は、朝日新聞社刊「世界の鉄道」'67年版119頁に掲載されています。しかし、ホテルの名称、所在、歩いたルートなど記憶に残っていません。ただ、横浜港からナホトカ、ハバロフスク、モスクワ、ペテルスブルグと進みヘルシンキに着いた時、曇り空にもかかわらず街の雰囲気が明るくなったように感じたものです。そして、のびのびと汽車の写真を撮ったことを憶えています。

以後、私の旅行計画の中に、フィンランドは全く存在しませんでした。

フィンランドには、4つの世界遺産が登録されています。また、バルト海の南にエストニアがあり、その首都タリンが世界遺産になっていることが分かりました。タリンまでは高速船で1時間45分、日帰りが可能です。40年前にはソ連だったようです。



世界遺産都市・ラウマの街並み

結局タリンと、ラウマへ行きました。一般に世界遺産は不便なところに存在し、ラウマも鉄道時刻表では鉄道で直接は行けません。そこでヘルシンキからレンタカーで行きました。

ラウマに行く前日泊まったのは、温泉保養地として有名なナントリのホテルです。ナントリからラウマまでは100km程度、1時間で行けます。

ラウマは中世フィンランドの木造建築が多く立ち並ぶところと紹介されています。インフォメーションで、世界遺産区域の位置・所在と食堂を紹介してもらいました。区域は商店・住宅として今でも使われています。電柱はありません。食堂は10時半からやっていました。満員です。

この食堂のじゃがいもと鮭のスープ（=写真）は、今回の旅では最も安く美味しい印象に残る食事でした。



午後2時、ナントリへ帰ることにしました。レンタカーを停めた24時間無料の駐車場の脇の公園にアイスクリームショップがあり、店の前の長椅子に腰掛け食べました。そして車に乗り出発しました。幹線道路で道の状況をビデオで撮ろうとしたら、ビデオカメラを件の長椅子に置き忘れたことに気づきました。すぐUターンして戻りました。20分は過ぎていたでしょう。駐車場の先を右に曲がり、アイスクリームショップの前の道に車を止め、置き忘れた椅子を見ると、年取った男の人が座っていました。アイスクリームショップの若い女の子が抽斗から何か取り出し、低い扉を開けてこちらに向かって来ます。手にカメラを持ち、車まで届けてくれました。

これまでフィンランドで経験した鉄道運行の正確さ、高速道路標識の設置の妥当さ等と相俟って、一挙にこの国に対する評価が高まりました。また、来てみるかオーロラでも見に、と思いました。

世界各地の話題を、会員の皆さんから募集します。かつて金内さん(故人)が、「世界遺産の旅」を連載して下さり好評でしたが、皆さんも自分の旅を記録に残す意味でも、ぜひトライしてみてください。今回の杉さんのように。(加納)

JN協会の平成17年度決算:単位千円

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,575	講演会費	1,617
講演会収入	1,673	JN紙発行費	1,365
寄付金(小田急電鉄)	800	研究会費	291
個人会員会費	829	交通費	1,532
団体会員会費	5,450	賃借料	1,616
計	10,327	通信費	767
		IT費	723
[次期繰越	1,596]	その他	820
		計	8,731

注) 前年度繰越金(2005年3月末)は、157.5千円と、黒字を計上している。

管理費に「人件費」の項目がないのは、理事長以下常駐の事務局員も全員無給ボランティアだから。JN発行費は、取材交通費インク代、用紙費であり、編集費はゼロ(無給ボランティア)。交通費は、ジバング倶楽部など最低の料金適用。

交通費は、常勤事務局員(4人)の自宅からの交通費プラス主として都内での取材などの交通費。

以上のように、無給ボランティアと手づくりでの情報紙発行など、きわめて安上がりの体制となっている。

JN協会は、今年から随時、経理内容を公開することとした。経理の「透明性と情報開示」がNPO法人の大きな課題の一つであり、会員の皆様の会費をもとに運営しているからには、公開が当然のことである。

NPO「江戸城再建を目指す会」が設立

NPO法人「江戸城再建を目指す会」
 理事長 小竹 直隆
 (JN協会副理事長)

JAPAN NOW観光情報協会の提携団体である「江戸城再建を目指す会」(会長・丹羽晟氏、副会長・橋元雅司氏、理事長・小竹直隆氏)が、3月に東京都の認証を得てNPO法人を設立、4月25日に江戸東京博物館でNPO法人設立記念総会を開催しました。総会は会員を中心に122名が出席、任意団体の解散と今年度の事業計画、予算などを議決しましたが、お蔭さまで、会場全体に「江戸城再建」の夢実現に向けた「気」が漲り、熱気溢れる集会でした。(写真下)



運動はスタートしたばかりで全てはこれからですが、今後数年かけて会員と支持者を拡大するとともに、情報誌「江戸城かわら版」などによる啓蒙普及活動、シンポジウムの開催、「築城構想プラン」の検討、「城」再建に取り組む他都市との連携など

の諸事業に取り組む予定です。今後の運動の進め方は、再建に向けた社会的気運を盛り上げつつ、やがては国民運動に点火し、いつの日にか、幻の「江戸城再建」を実現したいというのが、私たちの使命であり、マニフェストです。

壮大な事業を“草の根”で進めようとするだけに、あらゆる困難が待ち受けるであろうことを覚悟しつつも、「江戸城再建」が、観光立国と日本再生に繋がることを固く信じて一歩一歩前進していく決意です。皆さまのご支援を心から期待しています。



江戸城天守閣の再現想像図

「江戸城再建を目指す会」設立趣意書(抜粋)

世界各地で観光立国と魅力ある国づくりに向けて競争が繰り広げられている中で、東京は国際都市として確固たる地歩を築いているとは言いがたい。(中略)傑出した歴史・文化遺産が存在しない点にある。

(中略)1657年の明暦の大火で失われた江戸城の天守閣などが再建されれば、国際観光、文化都市東京の形成に寄与し、21世紀における日本再生のシンボルにもなりうる。

この観点から、江戸城再建を具体化するため各種の調査、研究を進めるとともに、世論を喚起するための運動をすべく特定非営利法人「江戸城再建を目指す会」を立ち上げる。

平成17年10月1日 「江戸城再建を目指す会」

代表 小竹 直隆

C O L U M N

スマイル

‘スマイル’と‘威厳’について勘違いしている人が多い。よほど厳粛な場でない限り笑顔は歓迎されこそすれ、忌みされることはない。古来わが国には、‘道’を究めるストイックな伝統があった。スポーツの世界でさえ、柔道、剣道、弓道のように厳しく道を究めるものであった。取り組む姿勢にも威厳や緊張感が要求された。修験僧のような鍛錬の過程で‘精神統一’‘明鏡止水’を追及し、‘威厳’‘真剣’を求められた。一方欧米では、スポーツは健康的に楽しむものとして、緊張とは対極にある‘リラックスセッション’を求められる。良くも悪くもこれが、国際大会の勝負の結果に繋がっているとの指摘がある。

さて、近年日本人もリラックスすることに気を遣うようになったが、不慣れのゆえにどうも板に付いていない印象を受ける。ガムを噛んで是不作法に顔を弛緩させたり、勝負には不必要で危険なピアスや、ネックレスを身につけたり、或いは下品にヘラヘラしたり、およそ日本の伝統的‘威厳’や、欧米的‘スマイル’とはかけ離れている。

かつてアメリカ政府の高官が、「日本の外交官にどんな人を望むか？」と聞かれて、「笑顔のいい人」と答えた。それほど国を代表する外交官には笑顔が欠かせないと受け取られている。欧米社会では、どれほどスマイルが大切であるかということは、学校教育の現場を覗けばすぐ分かる。教師、保護者、生徒自身の笑顔が明るく、特に教える教師の笑顔がとても素敵なのだ。日頃から教師は子どもたちに‘Everybody!! Smile!’と声をかけ続け、学校施設内はいたるところ‘SMILE’の標語だらけなのである。

確かに日本人は、スムーズにスマイルが出てこない。スマイル・クリニックもあると聞くが、普段から他人にマイナスイメージを与えないようスマイルを心がけるだけで、かなりの効果がある。どんな世の中になっても幸せのおすそ分け、‘スマイル’は普遍の宝だ。(近藤)

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

アフリカンバー エソギエ

新宿には、珍しい店が沢山ある。

ナイジェリア料理のアフリカンバー エソギエは靖国通りからちょっと入った繁華街のビルの3階。赤、黄、緑の電飾の不思議な光が薄暗い店内を照らしている。ナイジェリアはアフリカ最大の国であるが、イスラム教徒の遊牧民と農耕民族、キリスト教徒の農耕民族と商人で、食文化も異なるという。

エソギエは、北部の穀物、肉、乳製品、南部の根菜料理、海岸の魚をバランスよく提供している。

トマト味の「ココヤム芋とほうれん草のフィッシュシチュー」1200円、ほくほくプランテンとえびのパームオイルソース1000円などはお勧めだが、名前を聞いただけでは何のことだかよくわからないのが特徴である。

プランテンは、食用バナナである。椰子酒（パームワイン）も乳白色でカクテルのように甘く、その割にはサッパリ感がある。網焼きのマトンと玉ねぎ料理は、屋台料理だそうで、「スヤと赤玉ねぎ」というメニューで650円である。

ピーナッツパウダーと数種のスパイスを混ぜた、辛い調味料をかけて食べる。

週末はオーナーが仲間たちとアフリカ音楽を演奏することもある。住所は新宿区新宿3-11-2 村木ビル3F 電話03-3353-3334

営業時間は月 木が、18時から24時、金、土は18時から午前4時。日曜定休。（大島 慎子）

道の駅「瑞穂の里・さらびき」（京都府）

道の駅「さらびき」は、国道173号線沿いの京丹波町にある。オープンは1999年4月。今年で8年目を迎え、5月に利用者が100万人に達し、100人万目の人にコシヒカリ10キロや花束が渡された。

ここの特産は松茸と丹波栗。特に松茸は丹波松茸として香りも抜群だそうです。ほとんどが京都他の高級店へ出荷され、残念ながら一般



市場には出回らない。しかし栗、山菜、椎茸などの特産品は農家の方の持ち寄りで、野外に設けた野菜市で売られ、地元外の方にも大変好評だ。今年からは組合員100人を超える組合組織を作って、品揃えの安定化を目指していると言う。

また、ほうれん草、小豆を使った菓子「草納言」は村おこし特産品コンクール・全国商工連合会賞を受賞し大人気で通信販売もはじめ、品薄が続いていると言う。また、利用者が増えている要因として、スポーツリゾートゾーン「グリーンランドみずほ」が併設されていることが挙げられる。人工芝ホッケー場。グランドゴルフ場、テニスコート、体育館などのスポーツ施設と、宿泊研修施設なども完備。その玄関口として、道の駅「さらびき」は平日の利用者も増加し、京阪神方面からも多くの来園者を迎えている。

道の駅「さらびき」の開設時間は、4月～8月が午前9時～午後7時。9月～3月は午前9時～6時。休館日は、年末年始。

第2、第4木曜日定休。（祝日の場合は翌日）ただしトイレ・駐車場・公衆電話は24時間利用できる。

問い合わせ：電話0771 88 9350

（堤 りり）

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。



日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときとうつろい」と、現代の日本がいかにしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集を中心に構成されています。

1部2000円（送料別）で購入できます。お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員（1口5千円）、団体会員（1口5万円）
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPANNOW観光情報協会（電話03-5304-9500）
へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2006年7月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します（400～500文字程度）。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。
発行は2006年7月25日。締め切りは7月15日。

NPOから提案します

ジャパンナウ観光情報協会への期待 その25 論議不足のサステイナブル・ツーリズム

JN協会理事 寺前秀一

地球の定員は100億人と報道されている。現在65億人であるから残りの定員は35億人である。しかしながらこの定員はファーストクラスの定員ではなくエコノミークラスの定員であろうから、100億人が日本人と同じ生活レベルをするわけにはいかないはずである。

中国の発展が特に注目されているが、14億全員がファーストクラスに乗ることが可能かどうか、まじめに議論する必要がある。しかし誰も手をつけようとはせず、サステイナブル・ツーリズムに代表されるような雰囲気による議論の進め方しかされていない。

持続可能な発展とは、ことばを変えれば「地球の均衡ある発展」ということである。「地域」の均衡ある発展概念が「国土」の均衡ある発展概念、更には「地球」の均衡ある発展概念に拡大しただけである。しかしながら地球全体をファーストクラスにするためには、現在の科学技術水準を前提とすれば、定員減少を検討しなければならない。

科学技術の進展の恩恵もファーストクラスのサービス向上により大きく寄与している。緑の革命がうたわれ、途上国における生産性の高い小麦の品種改良が進められたが、むしろ欧州先進国の自給率向上をもたらした。バイオ技術の恩恵も同様のことが予想される。

地球定員の大きな決定要因の一つとして二酸化炭素量があげられる様になった。地球温暖化を問題化する必要性は先進国、特にアメリカ資本にあるとする見解がある。二酸化炭素排出を問題化することであり、途上国の経済成長をコントロールできるから

である。これまで行われてきたエネルギーの制約論議も、石油の生成説が深度化することにより、無尽蔵に存在するという説も出てきているから、二酸化炭素排出制限は説得力を増す。しかしながら、地球の歴史からすれば、現在の二酸化炭素濃度は高いほうではなく、植物にとっては息苦しいはずである。

石炭紀の濃度は現在の2倍であり、植物が繁茂していた。その結果今日の化石燃料となったのである。温暖化論議もエネルギー制約論議の二の舞にならないことを祈るのみである。サステイナブル・ツーリズム、エコツーリズム論議も、科学的な論議がいつそう必要とされるであろう。

あんな話 こんな話

地方特産品をネットで取り寄せる

「あなたの郷里の名産品をお届けします」「あの時の味が忘れられない」 - - こんな人たちが喜ぶ、インターネットでの地方名産品販売システムが、ある。山形県の副知事にお目にかかった際、泊まったホテルのパソコンから「山形屋」なる店を見つけた。5月11日開店であった。

実は、このネット販売は、「金沢屋」が先輩であり、どちらの店を覗いても“姉妹店”となっている。筆者が北陸朝日放送に勤務していた6年前、手がけたもので、いまでも金沢の「加賀野菜」とか「加賀棒茶」を取り寄せている。こんどは、「米沢牛」を取り寄せようかな。

どちらのシステムも、その地域の有識者、料理人らで構成する「目利き委員会」が選ぶので安心だ。下記にアクセスしてみても、いかが？

- 金沢屋 「<http://www.kanazawa-ya.com/>」
- 山形屋 「<http://www.yamagata-ya.net/>」

(加納)

あめりか観光通信 その6 -25セント玉-

25セント玉のコレクション

仕事の関係で年2回ほどワシントンDCを訪れますが、ここで楽しみにしている買い物があります。それは25セント玉。

裏に州の名前と独特のデザインが描かれた25セントのコイン(クォーター)があるのを、ご存知ですか。これは1999年から10年プロジェクトで発行されている記念のコインなのです。一般にも使用されていますので、おつりとしてもらって、「これちょっと違うな」と思った方もいるのでは？

今年発行されたのは、ネバダ、ネブラスカ、コロラド、ノースダコタ、サウスダコタの5州のコイン。発行の順番はアメリカ合衆国に加わった順とのこと。この5枚のコインを1セットにしてアメリカ

のキオスクで買うことができるのです。

値段は15.95ドル。お土産としても手ごろなお値段ですし、記念にもなります。(写真)

そのほかここでは銀のコインや記念のコインも入手することができます。このコイン、コレクションしている人も意外に多く、買い物のつり銭から丁寧に探してとっておくのもその方法です。あと2年で完成しますが、ご興味のある方は是非、アメリカ造幣局のウェブサイト

www.usmint.govで詳細をチェックしてみてください。

(JN会員 井上嘉世子)



ワンちゃん夏バテ予報

地球温暖化や都市化の進展に伴い、居住地域の気温は年々上昇しています。特に都市部における夏場の猛暑は厳しく、昨夏も国内各地で熱中症患者が発生しました。

しかしながら、猛暑に苦しむのは人間ばかりではありません。気象予報の現場では長年見逃されてきた予報提供対象、大切な家族の一員であるペットにも熱中症が急増しており、ひどいときには死に至るケースが報告されています。人間よりも体高が低く、夏場には50にも達するアスファルトを素足で散歩する愛犬、彼らの身体は暑さに弱く、夏ばてしやすいことが獣医学的にも明らかになっています。

そこで、“愛犬を熱中症から救いたい”という強い思いの下に、異分野の専門家（ペットフードメーカー、獣医師、気象予報士）が集結し、生み出されたのが世界初となる「ワンちゃん夏バテ予報」です。犬が熱中症を発症する基準値を基に、夏バテ危険度を「ほぼ安全」、「注意」、「警戒」、「嚴重警戒」の4ランクで提供しています

（図参照）。Web上・携帯画面上では、地域毎・時間毎にワンちゃんの表情で夏バテ危険度を表示しており、飼い主がワンちゃんを散歩に連れ出す最適タイミングが一目でわかります。

年々、猛暑が厳しくなる日本の夏、今年も「ワンちゃん夏バテ予報」を上手に利用して、愛犬との快適生活を過ごしてください。（横内 絢子）



会員名簿

（敬称略）（個人会員名簿は公表していません）

名誉顧問	： 松山善三（映画監督）
理事長	： 松尾道彦（日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁）
顧問	： 丹羽晟（前理事長、日本空港ビルデング相談役）
副理事長	： 白澤照雄（JN協会事務局長）、岡村進（小田急電鉄顧問）、橋元雅司（元国鉄副総裁） 大島慎子（筑波学院大学教授）、小竹直隆（元JTB専務）、須田寛（東海旅客鉄道相談役） 横山善太（株）JALUX特別顧問
支部長	： 片山文彦（新宿支部）、水野卓哉（北陸支部）、田久保万里夫（立教支部）、長尾亜夫（九州支部） 須田寛（中部支部）、岩田弘三（神戸支部）、坂本眞一（北海道支部）、梅原利之（四国支部）

【団体会員】（2006年05月20日現在）

（株）朝日ネット、（株）アドバン、荒井建設（株）、アンデス電気（株）、安藤建設（株）、池田暖房工業（株）、（株）伊勢丹、（株）井六園ワールド、岩田建設（株）、（株）エスシー・マシーナリ、（株）H K I アクシス、（株）大林組、隠岐の島町（島根県）、（株）奥村組、小田急建設（株）、小田急電鉄（株）、（株）小田急トラベル、鹿島建設（株）、鹿島道路（株）東京支店、大阪国際空港ターミナル（株）、関西電力（株）、九城企業（株）、（株）九電工東京支店、九州電力（株）、九州旅客鉄道（株）、（株）熊谷組、（株）グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄（株）、（株）耕人舎、国光施設工業（株）佐川サポートサービス（株）、三協アルミニウム工業（株）、（株）三普旅行社、四国電力（株）、四国旅客鉄道（JR四国）（株）、清水建設（株）、（株）ジャルセールス、（株）JAL-DFS、（株）JALUX、（株）JTB、（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研（株）、新菱冷熱工業（株）、常盤興産ピーシー（株）、住友電設（株）、（有）西洋館センター、静和堂竹内印刷（株）、（株）銭高組、全日本空輸（株）、総合パーキング建設（株）、セントラルリーシングシステム（株）、第一交通産業（株）、第一資材（株）、（株）大気社、大興物産（株）東京支店、大成建設（株）大成サービス（株）、大成設備（株）大成コーレック（株）、大鉄工業（株）北陸支店、大日産業（株）、（株）高尚、高砂熱学工業（株）、（株）竹中工務店、（株）丹青社、中部電力（株）、ティーシートレーディング（株）東京支店、電研工業（株）、東海旅客鉄道（株）、東急建設（株）、東京急行電鉄（株）、東京国立博物館、（財）東京観光財団、東京電力（株）、東光電気工事（株）、東芝エレベータ（株）、東北電力（株）、トーヨーカネツソリューションズ（株）、戸田建設（株）、名古屋鉄道（株）、西日本鉄道（株）、西日本旅客鉄道（株）、（株）西原衛生工業所、西松建設（株）、日墨ホテル投資（株）日本オーチス・エレベータ（株）、（株）日本海コンサルタント、日本空港ビルデング（株）、（株）日本航空インターナショナル、（財）日本交通文化協会、（社）日本添乗サービス協会、（株）日本プラント建設、ネスレジャパングループ、箱根町（神奈川県）、箱根建設（株）、東日本旅客鉄道（株）、（株）日立ビルシステム、（株）日立製作所、（株）ビッグウイング、福岡空港ビルディング（株）、富士機材（株）、藤長電気（株）富士通（株）、プラネットワークス（株）、（株）フィールドサービス、北海道旅客鉄道（株）、北海道電力（株）、北陸電力（株）、北海道空港（株）、（株）ホテル小田急、（株）ホテルメトロポリタン、前田建設工業（株）、（株）ホテルマリックス、マイナミホールディングス（株）、三井住友建設（株）東京建築支店、三菱電機（株）、（株）ミルックス、（学）森谷学園、（株）山武ビルシステムカンパニー、有楽土地（株）、（株）USEN、横浜貨物総合（株）、横浜ビル建材（株）、（株）ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング（株）、りんかい日産建設（株）

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

〒151-0053 東京都渋谷区代々

木1-58-13

小田急代々木

ビル3F

発行人：白澤照雄（JN協会事務局長）

編集長：加納 隆（JN協会理事）

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

総会記念講演のマリ・クリスティーヌさんの話は有益だった。外国人の立場から見た場合、日本に住み日本人の考え方も分かる“複眼”の視点での発言は、日本にどっぷり漬かっている身にとって、厳しい指摘ながら、うなづけることが多かった。その中で、強く共感したのは「旅行は本来、アドベンチャーである」との言葉。筆者は40数年前、まだ日本人の海外渡航が自由化される前に、アフリカ諸国を回った事があるが、ろくに言葉もできないのに、半年以上無事に旅ができた。まさにアドベンチャー、ナイジェリア北部の都市・KANOでは「同じ名前だから名誉市民に」とまで、歓迎される一幕も。古～い話で失礼。（加納）